



より覆われている割合は90%以上であり、砂礫地になっている割合は非常に少ない。なお、新生田川で水面面積率が高いのは穂高堰堤と長谷堰堤によるものである。

堰堤完成年度別の堆砂地内の森林面積率を図-3,4に示す。全体的には完成年度が新しいほど森林面積率が高い傾向が認められる。これは完成年度が新しいと堆砂が進んでいないために元の森林が残されたりまた一旦伐採されても再生が早く進むためと考えられる。

堆砂地全体面積と森林面積率との関係を図-5,6に示す。バラツキは大きいですが堆砂地面積が大きいほど森林面積率が低いことがわかる。これは堆砂地が大きいほど堆砂地内での流路の変動が起こりやすく、草地として適する条件の面積が増加するためと考えられる。

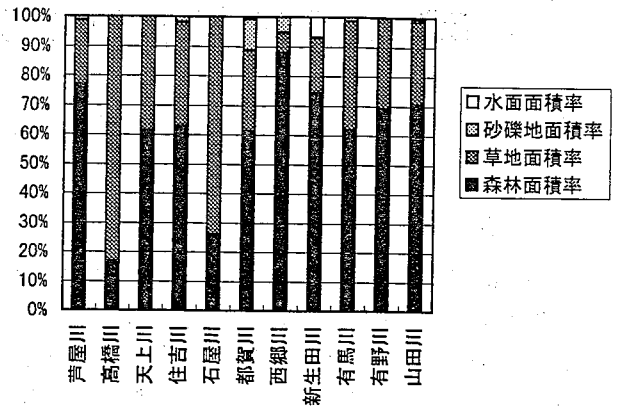


図-2 河川別堆砂地内の各面積率

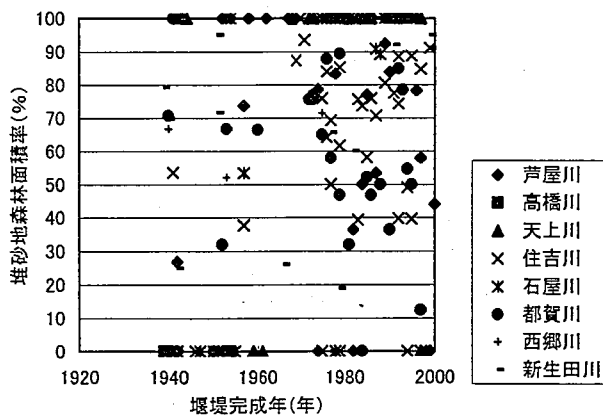


図-3 堰堤完成年と森林面積率 (南六甲)

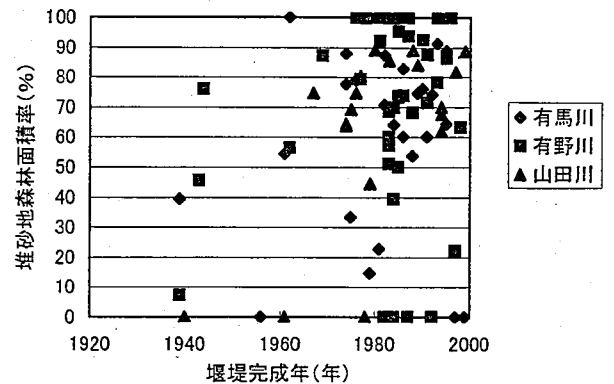


図-4 堰堤完成年と森林面積率 (北六甲)

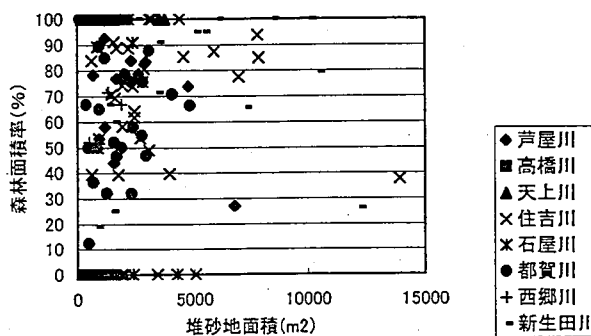


図-5 堆積地面積と森林面積率 (南六甲)

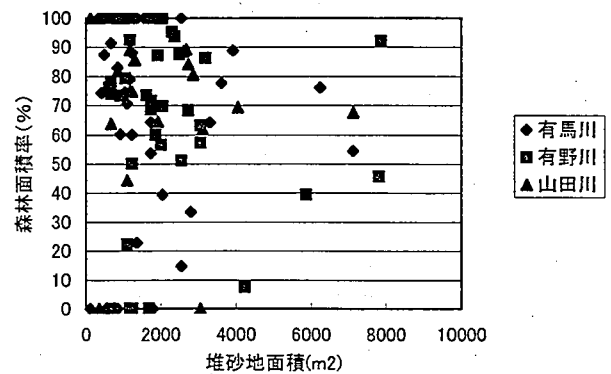


図-6 堆積地面積と森林面積率 (北六甲)

#### 4. おわりに

堰堤堆砂地内での森林や草地の面積には完成からの経過年数のみならず堆砂地の規模、堰堤の堆砂率、堆砂地の勾配等が影響していると考えられる。今後は撮影時期の異なる空中写真を用いて堆砂地の地形変化と植生被覆面積の変化を調査していく予定である。

最後に空中写真の提供等でご支援を賜った国土交通省近畿地方整備局六甲砂防事務所の皆様方に謝意を表します。